

高付加価値米やカミツレ生産による環境に配慮した農業への取組 ～農事組合法人大垣南（岐阜県大垣市）～

経営体の概要

設立年度：昭和38年
基幹作物：水稻
経営面積：50ha

現在：令和6年
基幹作物：水稻（主食用米、飼料用米）、カミツレ
経営面積：93ha

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【当初】

● 基幹的農業水利施設である頭首工の機能が低下。

● 幹線水路等は施設の老朽化により用水の安定的な供給に支障。



継ぎ目から地下水が流入している状況

【現在】

● 国営かんがい排水事業「西濃用水第二期地区」（H21～H26）により基幹的農業水利施設の改修が行われ、安定的に農業用水を供給。

● 続いて「西濃用水第三期地区」（R6～R15）により第二期地区での未改修施設の老朽化対策と耐震化対策を行い、用水の安定供給と農業水利施設の維持管理の軽減を図り、農業生産性の維持と農業経営の安定を目指している。

営農改善、経営転換等のポイント

①栽培技術の確立・向上

国営土地改良事業により農業用水が安定的に供給されたことにより水稻の安定生産が可能となった。また、環境に配慮したお米（品種：ハツシモ（※1））を生産するため、農薬7割減・一部鶏ふん堆肥によるレンゲ特別栽培米（※2）に取り組んでいる。これにより、1俵当たり800円単価が向上し、高付加価値米としてJAに出荷。

※1 岐阜県のオンリーワン品種、あっさりとした風味、大粒でしっかりとした食感。

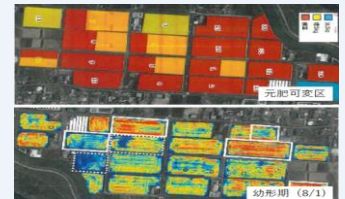
※2 岐阜県の県花「れんげ草」をすき込む方法で栽培されたお米。

②施肥量の削減

米の安定生産を図るため、岐阜県と連携しドローンを利用したリモートセンシングの実証を行っている。解析結果を基に、水稻の生育状況を把握でき、GPS付きトラクターによる最適な量の肥料散布が可能となるなど、施肥量14%の削減を達成している。



GPS付きトラクターによる肥料散布



リモートセンシング解析結果

③薬用植物「カミツレ」栽培の取組

昭和56年から開始したカミツレ（カモミール（※3））栽培は、現在では大垣市が日本一の生産量を誇る。肥料は、発酵鶏ふん及び米ぬかを用いて栽培し、実需者の求めに応じ完全無農薬で栽培。後作の水稻栽培では、無施肥での栽培が可能となるとともに米の食味が良好となるなど、副次的な効果も得られている。

※3 カミツレはハーブの一種。花から抽出されたエキ스는、化粧品や入浴剤として利用される。



カミツレ開花の様子

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：岐阜県大垣市外6町
受益面積：4,928ha
事業期間：令和6年度～令和15年度
事業目的：農業水利施設の改修及び耐震化
主要工事：頭首工改修2か所、用水路改修 L=15.3km
水管理施設改修一式

位置図



<問合せ先>

東海農政局
農村振興部農地整備課
課長補佐（競争力強化事業推進）・営農指導係
電話：052-223-4638

（令和6年度調査時点）